

最優秀賞



## 国境博物館

遠藤 孝弘(えんどう たかひろ)

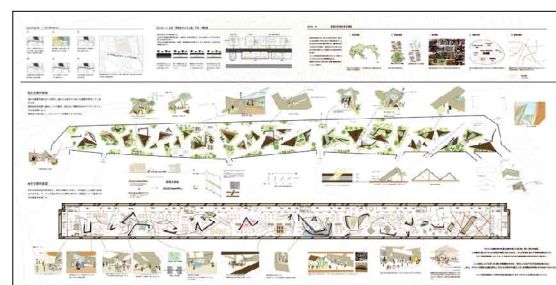
日本大学 生産工学部 建築工学科



世界を平和にする建築。国境は別々の価値観を持つ者達の争いの場。異文化同士の紛争、領土問題、密輸、密国などの問題が起きている。

そこで世界中の国境で起きている様々なことを知らせる博物館を提案する。世界で一番有名だった境界線「ベルリンの壁」。その中でも最も悲劇の起こった場所を抜き取って計画する。高さ 35m、厚さ 30cm のベルリンの壁は大地を貫き世界中の国数 203 回に折られて巻きついた。

かつて負の象徴だったベルリンの壁は、世界平和の象徴になる。人は世界中の悲劇を追体験し、負の記憶を受け継ぎ、未来へと歩き出す。



【講評】‘世界中の国境問題を考える = 世界を平和にする建築’という壮大なテーマに挑戦した卒業設計らしい作品である。敷地はベルリンの壁があった東西ドイツのかつての国境跡、ブランデンブルグ門からポツダム広場へ続く歴史と現代建築が混在するテーマに相応しい地区である。幾重にも折り曲げられた黒いスチール板のオブジェは、かつての国境として象徴である「ベルリンの壁」をモチーフに、切り取られた地表の孔を地上から地下へ地下から地上へ、とダイナミックに折り曲げられ、その連なる風景は圧巻である。オブジェに目を奪われるが、地下の展示についても世界の現状や抱える様々な問題について研究され、テーマ設定と展示方法についても良く練られた提案である。審査過程ではこれが建築か？という疑問も起こったが、作者の強い問題意識の結晶としてのエネルギーな提案内容と、リベスキンドやゲーリーにも勝るとも劣らない力強く象徴的造形力が評価された。

(審査員：柳田富士男)